

ケーキを分けるさる



むかしむかし、あるところにねこが二匹いました。二匹は友だちになりました。ある日、一匹がどこかからケーキをひとつぬすんで来ました。二匹はうれしくなり、そのケーキを分けて食べることにしました。



分けてみると、かた方が少し大きくなりました。それで、けんかになりました。
二匹のねこを木の上から一匹のさるがずっと見ていました。さるは木から下り
てねこたちに聞きました。

「どうしたんですか。」

ねこはわけを話しました。

「ケーキを上手に分けられません。ちょうど半分になるように分けてください。」



それを聞いてさるは大きい方のケーキを少し食べて小さくしました。すると、小さかった方が大きくなってしまいました。

ねこはケーキを見て「同じ大きさじゃないよ。」と言いました。さるは「ごめんごめん。まちがえました。じゃ、もう一度やってみましょう。」と言いました。そして、もう一度大きい方を少し食べました。でも、同じ大きさになりません。こんなことをくり返してさるはケーキをぜんぶ食べてしまいました。



そして、さるはあっという間ににげてしまいました。

(455 字)

(Retold by Rupal Baran Barua)

(2021.8 Edited by Tomoko KIYAMA)

(All pictures are drawn by Hinako FUJIMURA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.